

2024年度事業報告書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. 就労継続支援サービス（A型）事業

2024年度は、雇用契約者24名、非雇用契約者12名が就労継続支援サービス利用者として仕事に従事した。2024年度末の雇用契約者は、23名。

就労メンバーへの支払い総額（5年間の推移）

2024年度：33,926千円

2023年度：31,012千円

2022年度：28,692千円

2021年度：28,925千円

2020年度：31,303千円

就労メンバーの一人平均月額賃金（5年間の推移）

2024年度：（雇用契約者）102,117円（非雇用契約者）35,943円

2023年度：（雇用契約者）98,454円（非雇用契約者）35,059円

2022年度：（雇用契約者）94,766円（非雇用契約者）25,382円

2021年度：（雇用契約者）96,296円（非雇用契約者）23,676円

2020年度：（雇用契約者）92,396円（非雇用契約者）35,437円

【就労メンバーが従事する主な業務内容】

- ① 動画サイト監視業務
- ② AI関連のアノテーション業務
- ③ イベント情報データベース入力業務
- ④ Webアクセシビリティ検査業務
- ⑤ アンケートデータ入力業務
- ⑥ デザイン関連業務
- ⑦ パソコン講習講師 など

定常的な業務は、大きな変動が無かったが、スポット的な業務が増えたことで就労収入が増加した。コンスタントに従事する業務の新規開拓が課題である。

2020年度から開始した北海道との官民連携事業の「テレワーク就労体験事業」について引き続き、2024年度も実施した。

2. 就労移行支援・定着支援サービス事業

2024年度は、就労移行支援サービス利用者数14名。就職者数5名、翌年度の利用継続7名。定着支援サービス利用者数14名であった。

コロナ以降、就労移行支援サービスの利用者数が回復していない。明らかな時代の変化と受け止めており、今まで培ったスキルを活かした新たな事業開発が必要となっている。

その一環として、2023年度から日本財団の支援により「コミュニケーションが苦手な学生の就職支援」に注力している。2024年度は、8名の就職が決まる等、成果が出始めている。2025年度も引き続き、注力していく。

「コミュニケーションが苦手な学生の就職支援」事業の主な成果

- 研修・相談参加学生数：目標30名、実績42名
- 研修・相談のべ参加学生数：目標200名、実績407名
- 年度末LINE登録者数130名
- 就職者数：目標6名、実績8名
- 8名の学生が本事業によって就職を実現したことが大きな成果である。本事業で様々な研修や相談を実施したことで就職を実現できたと考える。このことは、学生向けアンケート結果からも明らかである。
- 昨年度から2年間に渡り各種研修や相談を重ねたことにより札幌チャレンジドの研修員や相談員が財産となる経験を積み重ねることができた。学生支援のノウハウが構築されている。
- 連携した各大学が、コミュニケーションが苦手な学生への対応の必要性や難しさを学び、今後の対応について継続した連携が望まれている。
- 10月に開催したフォーラムに向けて、行政（札幌市）や議員（札幌市議）とも意見交換を重ねたことで本取り組み課題が、個人や大学の単体の課題としてではなく「地域課題」としての認識が生まれつつある。このことは、今後の事業継続に向けて大きな成果と考える。

3. パソコン講習事業

(1) パソコン講習

引き続き、個別講習への移行傾向が続いている。

(2) 放課後等デイサービス事業

コロナ以前の利用者数に回復した。特に、昨年から開始した「キャリアデザインコース」へのニーズが強く、生徒たちの成長に大きく寄与できている。生徒たちのキャリアデザインの視点から就労移行支援サービスや就労継続支援サービスとの連携も深めながら多様な経験のできる札幌チャレンジドならではの放課後等デイサービスを提供していきたい。

(3) 札幌市障がい者ICTサポートセンター事業（札幌市受託事業）

① パソコン講習会

2023年度と同様に、札幌チャレンジドのパソコン講習会場を会場とし、感染予防の観点からマンツーマン方式で開催した。

② パソコンボランティア派遣

2024年度は、ボランティア派遣を再開したが、利用ニーズはまだ様子見との感触が強い。

ボランティア養成講座は、予定通り実施した。

③ 相談業務

電話、メール、来所・FAX等で相談対応を行っているが、引き続き、様々な相談が寄せられている。

(4) 札幌市障がい者DXリスキリング事業（札幌市受託事業）

企業等に勤める障がい者を対象としたDXリスキリング事業を札幌市から受託した。パソコンの新たなスキルを身に付けることで障がい者が企業等で生き活きと働ける社会を創っていく。

講座参加者の満足度はとても高い。とても良い事業との評価を得ているが、講座参加者がまだ少ないことが課題である。次年度も継続されるので、広報に注力していく。

4. 中期経営計画 2024 重点 ACTION プランの実施結果

1. 世の中にまだ無い新たなタイプの就労継続支援B型事業所の開設（カレッジ型就労継続支援） → 2025年4月に認可された。
2. 高等支援学校からの実習生の受け入れ拡大（移行・就労）
→ 年間を通して継続した受け入れを実施した。
3. 視覚障がい者支援（PC講習・就職支援）の継続・充実
→ 視覚支援学校への訪問講習を継続実施した。
4. 放課後デイのコース設定（興味探求コース・キャリアデザインコース）
→ 2023年7月からキャリアデザインコースを開設した。
5. A型事業における新規分野開拓（アノテーション、メタバース等）
→ AI関連業務を新規受注した。

6. 福祉を学ぶ大学生の現場実習機会の拡大（移行・放課後デイ）
→ 放課後デイでも現場実習生を受け入れ実施した。
7. 高等支援学校のインターンシップ・訪問講習の継続実施（就労・講習）
→ 手稲養護学校三角山分校のオンラインインターンシップを継続実施した。
8. 放課後デイの療育的側面の充実に向けた研修・支援機関との連携強化
→ 公認心理士やキャリアカウンセラーなどの専門家の研修を実施した。
9. 視覚障がい者の就職支援の為の新たな枠組みの設立
→ 2022年度に視覚障がい者ICT就労促進検討会を主催した。
10. 広報 ACTION プランの実行
→ 札チャレ通信の見直しやSNSでの情報発信の強化等を実施した。

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上